

## 米国スリーマイル島原発事故26年にあたり、 品質保証体制がずさんで責任逃れをくり返す貴社に、 原発の全面停止を求めます

若狭連帯行動ネットワーク

貴社は、3月22日、美浜1号炉のB-充てんポンプマニホールドカバーのボルト3本が折れ、ナットとともに床面に落ちていたと発表しました。それは、「美浜発電所3号機二次系配管破損事故について」という報告を3月1日に経済産業省、福井県、美浜町等へ提出して間もないことです。5名の作業員の命を奪った美浜3号事故の教訓を貴職は一体どのように受け止めているのでしょうか。

貴職は、「美浜発電所3号機二次系配管破損事故について」の中で、美浜3号事故に対する自社の責任を認めないばかりか、1次系充てんポンプのボルト折損事故を発見しながら運転を止めずに原因調査をさせています。私たちは貴職に対しここに強く抗議します。

貴社は美浜3号事故に遭遇しても「これは2次系の事故だ」として、軽視する態度を示してきました。今また、炉心に冷却水を注入する充てんポンプで4本のボルトが全数破断する寸前の事故を発見しながらこれを軽視し、運転継続を優先させています。

充てんポンプのマニホールドカバーがはずれると1次冷却材喪失による炉心溶融事故の危険があります。1979年の米国スリーマイル島原発事故はもとより、チェルノブイリのような破局的な放射能災害事故につながる危険もあります。4本中3本のボルトが次々とまたは一斉に破断するという事故は極めて異常です。安全を優先させるのであれば、即刻、美浜1号の運転を止め、原因究明を行い、抜本的な再発防止策をとるのが美浜3号事故の教訓ではないのですか。

また、折れたボルト3本を3月19日午前中に床面で発見したにもかかわらず、すぐに公表せず、土日と祝日を挟んだとはいえ3日間報告せず、22日ようやく発表したことです。これは相変わらずの貴社の隠蔽体質の表れであり、国民や住民を愚弄する行為です。

貴社は3月25日の「再発防止に係る行動計画」で「安全を何よりも優先します」というスローガンを掲げましたが、今回の対応を見る限り、安全より経済性を優先させるという貴社の「社風」は何も変わっていません。

さらに問題は、それを貴職自身が認識できていないことです。言葉の上では認識しているかのように振る舞うものの、貴職は社長を退任した後も取締役にとどまり、秋山会長も1年間現職にとどまるなど、5人の命を奪った事故の最高責任者としては余りにも軽い処分です。美浜3号事故に関して関電本社には責任が無いとのメッセージを世に示すという高慢な姿勢を見せたのです。

美浜3号に関する貴社の報告は、政府から2回も突き返されるなど、ずさんなものでした。そのうえ3月1日の報告は、事故前に当該配管の点検漏れを貴社が「抽出し、確認していた」にもかかわらず、そのまま放置した責任をあいまいにしたままです。

品質マネジメントシステムが機能していない貴社の原発で、2次系だけでなく1次系の機器や部品でも事故がくり返されていることはゆゆしき事態です。

貴社に対して、全原発を即刻停止し、原発推進から撤退することを求めます。